2025年度事業報告書

2026年　3　月　31　日

公益財団法人 日本セーリング連盟

2025年度事業報告

総務委員会　委員長　池田 崇之

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
c	定期表彰	インクルーシブな取り組みを含むセーリング活動の表彰実施	顕著な活動の認知度向上	表彰式の開催	2026年1月	Green	
g	ガバナンスコード対応	規程・基準の継続的見直し	JSAFの運営、実施体制のルールに関する整備	ガバナンスコード、規程、基準等	通年	Green	
g	レース等行事の公認・後援検討	JSAF公認・後援レースの検討実施(レースマネジメント委員会と共同)	公認・後援レースへの保険付保等、安全確保	公認・後援レースの開催	通年	Green	
h	コンプライアンス研修	会員、特に各団体リーダー向けの研修実施	会員全体のコンプライアンス意識向上	研修の開催	2026年2月	Green	

財政委員会　委員長　松田　一時

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	1. 適切な支払・立替手続きの遂行	・各専門委員会から日々上がってくる支払・発注の申請の内容確認。 ・事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの簡素化と改善。 ・源泉徴収関係の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を継続。	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	各種外部検査における指摘ゼロ	通年	Green	通常の支払手続きについては滞りなく支払チェックを実施。 不備に対しては都度の確認を励行。
	2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	・事務局のほか関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。 ・年間方針や重点施策に基づき各委員会が推進する事業計画の進捗に応じた円滑な予算執行に努める。 ・足元の収支状況についての情報提供を促進。	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評議会・理事会向け報告	通年	Green	2025年予算から各委員会ごとに予め設定した収支差額の範囲内で予算化し執行をモニタリング、重点施策を実施するために必要な予算は経営企画委員会から組入する仕組みが定着化。 足元の収支状況に関する分析・情報提供についてはリソース不足もあり課題。
	3. 健全な財政基盤の確保	・JSAFとしての経営戦略に基づき、会費・寄付金・賛助金等の収入ソース拡大の検討がなされる中、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を進める。 ・収支バランスの安定化に貢献する各委員会の取り組みのサポートを強化する。	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	管理ツール整備	通年	Green	2Cに加え、事務局・総務委員会と協力のうえ、寄付金の税額控除証明申請を行い、税額控除適用団体の承認手続きが完了。今後寄付者の裾野拡大を期待。 会員数の減少傾向に伴う会費の頭打ち、協賛金業の減少から2026年度の収入減少がリスク面で顕在化。
	4. 会計経理業務のガバナンス強化	・事務局における経理会計事務の体制強化を支援し、帳票類の整備を推進させる。 ・公益財団法人に期待される会計・経理態勢の確保に努め、態勢整備を行う。 ・業務委託先の選定方法、業務委託における契約書類締結要否の確認、支払申請に関するフローを円滑に運営する。	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	試算表、マニュアル類等の整備	通年	Green	ガバナンスコードに基づく整備に関し、5か年計画を新たに策定済。長期的視野での財政計画に努め収支相償の確保を計る。

事業開発委員会　委員長　平松　隆

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	JSAF SHOPの運営管理	JSAF SHOP受注商品の発送管理、在庫管理並びにSHOP画像の更新とアドレス登録者へのタイムリーな情報の発信	JSAFロゴ入りグッズの販売を通じて、会員のJSAFへの帰属意識の向上並びにメリットとして、新規会員の獲得と持続的一助とする。	グッズ購入者への適切で迅速な対応。	年間	Green	購入者との大きなトラブルもなく順調に推移した。
i	JSAF SHOP販売商品の拡充	魅力あるJSAFロゴ入り商品の開発	限られたマーケット(JSAF会員＋セーリングファン)に対応した新規商品を随時投入して売り上げのアップを図る。	SHOP売り上げのアップ。新製品アイテムの投入は限定的とする。一方で在庫商品の販売を強化する。	年間	Green	本年度の新規製作商品はJSAFロゴ入りスカーフとカレンダーのみ。

広報委員会　委員長代行　獅原　ゆき

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	JSAFサーバー移管	安価で良質なサーバーを探し、移管する	AWSが高いため、移管して経費削減	費用削減効果が顕在化	25年度中	Green	見積を取り寄せて比較。その結果、移管による一時費用がかかり、長期的に見ても今の為替水準では費用削減効果が見込めないと分かり現状維持を決断。
	J-sailing印刷・編集・発送	J-Sailingのデジタル化を図る	発送料などのコスト削減	デジタル化実現とコスト削減	25年度中	Green	J-Sailingの編集作業を舵社に委託。同時にMy Sailingを使って郵送を希望者に募ったことで発送数を削減。作業量の大幅縮減、および費用削減効果を大きく。
	委託費(西氏)	プレスリリースやJ-sailing発行などを委託	迅速でシームレスな広報対応	タイムリーな対応と効果		Red	体調問題などであらゆる事業が一時期中段。JSAFの広報体制の脆弱性が浮彫になる結果に。課題を含めた対応策を模索。
	委託費(HPリニューアル)	HPリニューアルの業者選定と移行作業	長年課題となっていたHPリニューアルに取り組む	新たなHPのローンチ	26年第1四半期	Green	1-3月で業者選定を行い、4-6月期でローンチ。きわめて順調に作業を進めている
	取材費(アセット蓄積)	写真や動画のアセットをJSAF内に構築する	プレスリリースに使ったり、メディアに提供できる写真をJSAF内で構築する	保有メディア数		Yellow	選手ポートレートなどを取り始めているが、オリ強や大会での写真は外部に委託しているのが現状で、版権や著作権の問題は残ったまま
	JSAFサーバー保守管理	サーバーの保守管理費用	JSAFのサーバについて保守管理を行う、また費用を削減する	超年の目標		Yellow	新たにHPが立ち上がることでゼロベースで議論を行う

環境委員会　委員長　大塚　俊明

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

国際委員会　委員長 福川郁子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	国際機関ポスト獲得・国際会議派遣	・World Sailing のミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する	・委員の派遣		2025年11月	Green	2024年のIFの委員会の選出に基づき派遣を行った。また、AFIにおいてはアジア大会の準備に向けて新しくアジア大会(エジプ)の理事のポジションの創生をAFIに働きかけ、金藤受子氏に就任いただいた。2026年はAFIの理事、委員会の改選が予定されており、JSAFとしての方針の確定、委員候補の選出が課題。
		・World SailingやASAFにおける日本のプレゼンス向上	・WSでの年次総会及び臨時会議等における議題の把握			Green	IFおよび年次総会で設定される議題に関して選次第在委員会にインプットを行い、方向性を確認の上、日本の ポジションの発信を行った
			・上記議題におけるJSAFその他国内のステークホルダーのポジション確認・生成・発信			Green	
h	スポーツ外交	・セーリング競技の普及及び普及活動を通じての関係性構築	・セーリング競技の普及及び普及活動を通じての関係性構築	・助成金の獲得	2025	Red	オリンピックは除、助成の対象範囲が狭くなり、助成金を活用して国外にセーリングの普及を行うような活動に結ぶつかなかった。
				・コーチ派遣または、選手・コーチの招へいの実施		Red	

レディース委員会　委員長　長田　絵梨子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
f	チャイルドルーム	E.O.Wチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数　10名	2025年6月	Green	本大会での設置が恒例化し、利用できることを条件に運営役員を引き受けるなど、大いに期待されている。大会がJSAFの主催ではなくなり、予算確保の懸念されたが、冠大会となり例年通り実施できた。
f	チャイルドルーム	AICHI-GAMAGORI CUPチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数　11名	2025年8月	Yellow	来年度のアジア大会のリハーサルとして実施したが、設置の可否が直前まで決まらず、開始が丸十分上たった。来年度の設置に向けて、準備委員会等への働きかけを十分に行う。
f	チャイルドルーム	青森リハーサル国スポチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数　17名	2025年9月	Yellow	いろいろな情報を見つけて魅力的なものにしたいと、利用者数が過去2番目の規模となったことは、意のための。利用者が少なかった。本大会での周知活動への課題が残った。設置が恒例化、[illegible]
f	チャイルドルーム	滋賀国スポチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数　80名	2025年9月	Green	施設も改善され、子どもたちにより環境を提供できた。選手、役員の要望が高く、それに応えることはできた。
a,c,d,e	WSステアリングコース	ハンザ体験会	普及推進、女性参画支援	予定数　参加者24名、スタッフ40名	2024年6月	Red	計画して一般参加者を募集するも、無天のため、実施せず。
a,d,f	情報交換会	広く会員やヨット関係者を募り、それぞれが抱える課題を共有しその解決につながる情報の意見交換	女性支援	配布人数　多数	通年	Green	大会運営側が配慮してくれる場面も見られるようになってきた。確実に女性を取り巻くセーリング環境の向上に繋がりつつある。
a,d,f	生理用品配付	レース時にセーラーを中心に必要な生理用品を配付する。	女性セーラーを取り巻くセーリング環境の向上インクルーシブなセーリングへの取	参加者数　40名	2026年2月	Green	座談会形式で開催し、現役アスリートの困り事や要望を聞いたり、県連や艇種別協会の情報を伝えることができた。
d,e	マッチングシステム構築	加盟団体、特別加盟団体とのネットワーク作り	各県連や競技団体に所属する女性、個人で活動する女性セーラーとネットワークを構築することで、女性に関わる情報の相互共有の強化	48団体56名の登録あり	通年	Yellow	いろいろな機会を見つけて魅力的な活動を行い、趣旨を伝えることができた。働きかけを継続して行うが要あり。今年度は情報交換会を活用していく。
a,d,f	国スポレディース委員会主催講演会	医療委員会やアスリート委員会と共催で国スポ会場での女性セーラーの健康についてとドーピングの講演会を聞くことで、健康上の課題を解決したり、その意識を高めたりすることを目的	女性セーラーが国スポ開催県の現役アスリートの情報収集や現役アスリート、スポーツドクターの講演を聞くことで、健康上の課題を解決したり、その意識を高めたりすることを目的	参加者数　15名	2025年9月	Yellow	大会期間中に開催されるアスリート委員会の講演会に参加することで、情報の収集や交換ができたが、参加者が少なかった。ドーピング講習も併せて有意義なものだったが、計測日に当たっておりお参加者が少なかった。[illegible]

アスリート委員会　委員長　宮田　愛

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
d	セーリング選手のための障害予防とヘルスケア	国スポでの講演会実施	医療者からのアドバイスを聞き、より良いパフォーマンスに繋げるため	参加者20名	2025年9月	Green	講習内容は素晴らしく、特に女子大学生・高校生に聞いて頂きたかった。国スポの計測日であったことから参加者が少なかったので、日程の見直しが必要である。
kim	各種目、カテゴリーのトップ選手の意見を吸い上	HOPE合宿(座間味島)	トップ選手との交流による知見拡大	参加者15名	2025年12月	Green	数年前から委員会内で取り組みたい事業だったが、やっと1回実現した。HOPEの選手たちが集まる会議で盛だく、2回は行きたいなと考えている。
o	インクルーシブセーリングの選手の強化	セーリングパートナーとして練習に参加	インクルーシブ世界選手権でのメダル獲得・選手強化	2025年世界選手権3位	25年10月11月	Green	委員会内で行いたい事業のうちの1つが実現、こちらも継続したい
c	広島ビーカップ講習会・講演会	観音マリーナ内での講演会	ハンザ級を楽しむ方々との交流・セーリングの普及	参加者100名	2025年9月	Green	セーリングの普及にはハンザ級の普及が欠かせないということから実現、こちらも機会を見つけて継続したい
a	2026インターナショナルボートショー	JSAFブースでの講習会	トップ選手との交流による知見拡大・集客	2日間で約100名の参加者	2026年3月	Green	昨年のオリンピック後より集客が望めない中でも反響があった、登場者を変えて次年度も継続したい

ルール委員会　委員長　勝井　裕大

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
a, f, g	事業1)ルール関連資料の翻訳・発行	競技規則であるWorld Sailing規程の一部、付則および試行規則、競技規則の公式解釈であるケース・ブック、コール・ブックおよび規則42解釈、Q&A、ラピッドレスポンスコール並びに競技規則の緊急改定など、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	セーリング競技の根幹である競技規則と規則解釈を日本語訳して国内セーラーに提供	World Sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年	Green	WSから公開されたコール・ブック、規程類を順次翻訳、公開した。ケース・ブックの翻訳を進め、4月中に公開できる見込みとなっている。 翻訳に当たっては、日本語訳の語句の統一を図るなど、正確かつ分かり易いものとなるようにした。
g		World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	国内ジャッジ/アンパイアのレベルの維持・向上	World Sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年	Green	ジャッジ・マニュアルの翻訳、HPでの公開が完了した。 アンパイア・マニュアルがWSから公表され、現在、翻訳作業中。
g	事業2)国際ジャッジ・アンパイアの育成	・国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助。 ・海外で開催される IJ/IU のセミナー/クリニックへの参加のための渡航費補助。 ・国内で開催される国際大会へのアジア諸国のIJ/IU候補者の来日支援のため渡航費補助。 ・国内で開催される国際大会において、主催団体からJSAFによるジャッジ/アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して推薦。 ・JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦委員会の開催。 ・World Sailing の委員にJSAFがノミネートしている3名をWorld Sailing年次総会に派遣。	・日本人IJ/IUの継続的輩出によるJSAFの情報収集力の維持・向上、JSAFとしてのセーリング界への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・日本人IJ/IUのスキルの維持、向上 ・特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイア育成への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・World Sailingの意思決定と活動に対するJSAFとしての貢献、JSAFの世界での地位向上	日本人IJ/IUの新規認定1人/2年＝現IJ/IU人数5名の維持(平均資格維持期間を平均4期16年間と仮定)	通年	Green	江ノ島オリンピックワイヤに海外から参加したNJ1名に対し、渡航費の一部補助を実施した。 WS年次総会に委員1名を派遣した。 IIセミナーに合格していた日本人ジャッジがIJ資格取得に必要な国際大会でのレファレンスを取得するために、香港レースウィークに参加するための渡航費の補助を実施した。
g	事業3)ナショナル・ジャッジ/アンパイア講習会の開催	新規A級ジャッジ認定講習会・試験を国スポ開催予定地など2-3箇所開催。	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定15名	未定	Green	新規認定講習会を4回開催し、18名合格した。
g		新規アンパイア認定講習会・試験をアンパイア制レースの大会の機会を利用して(水上実技を必要とするため)1-2回開催。	ナショナル・アンパイアの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定3名	未定	Green	新規認定講習会を開催し、3名合格した。
g		A級ジャッジを対象とした資格更新講習会を前年度未受講者を対象に1-2回追加開催。	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	更新者30名	2025年4月～	Green	NJA更新講習会を2回開催した。受講者6名。
g		アンパイアを対象とした資格更新講習会を前年度未受講者を対象にアンパイア制レースの大会の機会を利用して(水上実技を必要とするため)5-6回追加開催。	ナショナル・アンパイアの養成、国内レースの質の維持・向上	更新者15名	2025年4月～	Green	NIJ更新講習会を座学2回・実技2回開催した。 受講者7名。
g		・ジャッジ・クリニックを全国6箇所程度で開催。 ・B級ジャッジのためのステップアップクリニックを全国8箇所程度で開催。	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	受講者数195名	2026年1-3月	Green	ジャッジクリニックを全国6か所で開催。受講者数66名。
f, g	事業4)ナショナルB級ジャッジ認定	・新規B級ジャッジ認定講習会・試験を実施する加盟団体・特別加盟団体に、試験問題と講習補助資料を提供。 ・認定証発行やデータベース入力などの認定管理業務。	初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体の支援、国内レースの質の維持・向上	新規認定80名	通年	Green	全国16か所での講習会開催を支援。受講者数160名
f, g		・B級ジャッジを対象とした資格更新講習会を前年度未受講者を対象に追加開催する加盟団体・特別加盟団体に、講習補助資料を提供。 ・認定証発行やデータベース入力などの認定管理業務。	初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体の支援、国内レースの質の維持・向上	更新者100名	2025年4-6月	Green	4か所での講習会開催を支援した。受講者数22名。
d, e, f	事業5)競技規則の普及	ルール検定制度の構築、試験問題の作成や受験システムの開発、運用開始	ルールの知識を習得したことが個人で確認できる仕組みを会員に提供	検定制度の完成・運用開始 受験者数100名	2026年1月～	Yellow	試験問題の開発に取り組んでいる。運用開始には至らなかった。
e, f		指導者・選手向けルール講習会の開催	知識習得の場の提供	受講者数1000名	2026年1月～	Green	全国7か所で開催。受講者数297名。
e, f	事業6)指導者育成支援	日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める業務を支援する。	普及指導員会が進める指導者育成への貢献	対象講習会数45回	通年	Green	対象講習会を42回開催。
a, e, g, q	事業7)アンパイア制レース普及支援	・アンパイア制レースを主催する加盟団体・特別加盟団体に対し、開催支援やアンパイアの紹介を行った。 ・チームレース・クリニックを実施した。	世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え、将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、加盟団体・特別加盟団体とのアンパイア制レース推進のための中長期的なビジョンの共有と連携体制の構築を図る。	アンパイア制大会数増加1大会／4年	通年	Green	アンパイア制レースを主催する加盟団体・特別加盟団体に対し、開催支援やアンパイアの紹介を行った。 チームレース・クリニックを実施した。
a, e, g, j	事業8)外洋艇レース普及支援	ローカルクラブレースサポートキャラバン・外洋クラブ(非加盟団体)のクルーザーレースにおいて、標準レースをJSAFからの派遣資格者が監督協力して企画実施したレースを盛材に講習、意見交換を行う。併せて、①登録セールナンバーのPR、②ローカルクラブレース現状調査、③JSAF活動の周知等も行う。RMC等関連委員会と連携し、1-2箇所で試行実施。	・外洋クラブ(非加盟団体)を対象とした、フォーマルなレースの啓発、ルール意識向上(安全管理)、JSAFとの親和性醸成。 ・試行実証を踏まえた継続事業化	実施報告書	通年	Red	実施できなかった。
g	事業9)カイトボード大会へのジャッジ派遣	カイトボード大会主催団体に働きかけ、ナショナル・ジャッジで構成するプロテスト委員会の任命を促し、ルール委員を大会ジャッジとして派遣する。	・カイトボードに対応できるジャッジスキルをJSAFが獲得する ・カイトボードに対応できるジャッジ養成に向けた計画の立案 ・大会主催団体を含むコミュニティのフォーマルなレースの啓発	実施報告書	通年	Yellow	カイトボードの国内大会1回にルール委員会の委員がジャッジとして参加したが、ジャッジ育成に向けた具体的な計画の立案には至っていない。

ﾚｰｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会　委員長　宮島　太郎

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
g	レースオフィサーセミナー	NROセミナー(認定学科講習・認定試験)の実施 受科試験通過者への実技認定審査の実施	「レースオフィシャルズの養成による国内大会の安全確保と質の維持・向上、 レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開	受講者20人（1会場）	2025年 6月～12月	Red	2025年度未開催 2027年1月東京開催予定
g	レースオフィサーセミナー	AROセミナー(認定講習・認定試験)の実施 受科試験通過者への実技認定審査の実施	「レースオフィシャルズの養成による国内大会の安全確保と質の維持・向上、 レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開	受講者50人（2会場）	2025年 6月～12月	Yellow	2025年度4会場28名受講（茨城、広島、宮崎、兵庫） 2026年度継続開催
g	レースオフィサーセミナー	LROセミナー(認定講習)の実施(認定試験なし)	「レースオフィシャルズの養成による国内大会の安全確保と質の維持・向上、 レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開	受講者50人（3会場）	2025年4月 ～2026年3月	Green	2025年度6会場81名受講（茨城、広島、宮崎、兵庫、神奈川、島根） 2026年度継続開催
g	レースマネジメントクリニック （初心者向け）	初心者向けレースマネジメントクリニックの実施	普及の観点から各委員会と協力してクリニック(講習)の開催をとおし、レースオフィシャルズの育成、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。	受講者40人 （大学生・一般）	2025年 10月～12月	Red	2025年度未開催 2026年度国大所開催地等案施予定
g	セミナー・クリニック　テキスト編集 （講習テキスト編集）	翻訳・学科教材スライド編集・実技認定審査のアセスメント構築	レースマネジメントポリシー等の翻訳を行い、セミナーのスライドを作成する。実技の評価方法、実施内容を定める。	5人	2025年 4月～6月	Green	2025年度実施 2026年度継続開催
g	セミナー・クリニック　インストラクター養成 （インストラクター育成）	セミナーのインストラクターを養成し、講習内容の打合わせ実施する （全国のインストラクターの目合わせを行うために必要な措置）	JSAFが主催するROセミナーを全国均質に行うために、教材・講習・評価のポイントなどについてのインストラクター打合会を行う。	インストラクター講師2～3人 インストラクター　10人 事務担当者2人	2025年 4月～6月	Green	2025年度実施 2026年度継続開催
g	（追加）レースマネジメントクリニック レースオフィサーキャップデートセミナー （JSAF、RO講師に基づく提案）	ルール改定に伴うNRO更新講習を実施する。NRO更新のための義務講習になっているレースマネジメントクリニックを実施する。	ルール改定に伴う最新の運営規則等を周知することをとおしてレースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。	NRO　保有者の95%を目指す 更新講習・RMC未受講者15名	2025年 3月～	Green	2025年度1会場開催
g	国民スポーツ大会の支援・推進	レースマネジメント委員会メンバーを、国民スポーツ大会へ派遣	国民スポーツ大会を支援するために、レースマネジメントに秀でた中央派遣メンバーを派遣し、全国から参加したセーラーに質の高いレースを提供		2025年9月 2025年10月	Green	9月青森国スポリハーサル大会 10月滋賀国スポ大会へ中央派遣メンバー として RM委員会メンバーを派遣
g/q	国際大会・セミナ・クリニックへのレースオフィサーの派遣事業	国際大会・セミナ・クリニックへレースオフィサーを派遣する	IRO資格取得及び更新用件に国際大会での運営経験が求められるため、国際レース・セミナ・クリニックにレースオフィサーとして派遣し、経験を積んでもらう。	・1名を派遣したい	2025年8月～ 2026年2月	Red	
g	マーケポット(自走式マーケフイ)の運用	競技会においてマーケポットを活用したレースの運営	・マーケポットを活用したレースの運営 ・運用方法の検討・策定		2025年5月 2025年9月 2025年10月	Green	継続実施
f/g/h/j	外洋合同委員会会議	外洋合同委員会会議への参加	外洋系ルール・計測・安全に関する情報を専門委員会で共有する	ルール改定年にあたり、ROクリニック・セミナーの外洋艇部分ののブラッシュアップ。 次世代委員1名の選定	2026年2月	Green	2月外洋合同委員会会議へ参加
g/h/j	長距離外洋レース運営協力	外洋常任委員会主催レース・長距離外洋レースへの協力	管理水面で行われないレースに関する情報を整理し、次世代につなげる。RO講習会の外洋部分の向上	外洋委員会委員全員の[illegible] その他長距離外洋レース主催者への情報提供	2025年4月～	Green	DMGオーシャンスプリングフェスティバルスタート側サポート
g	公認・後援審査	公認・後援する大会開催に関しての審査	公認・後援等が規則に則り適正に行われているか審査する。	審査件数60件を予定する	2025/4-2026/	Green	12/09時点　59件
g	全国レースマネジメント委員会	年2回の全国委員会の及び隔時WEB委員会(小委員会)の開催	レースマネジメント委員会の事業実施に係る方策の協議・報告	レースマネジメント委員の参加	2025・3月 各月隔時	Green	11月：東京都港区にてRM委員会開催済 3月：大阪府にてRM委員会開催予
g	国内国際レース調整の実施	・国内国際レース　レースオフィサー派遣 ・国内国際レース　レースマネジメントパネル維持	・ROレースマネジメント経験値向上	2025年420アジアオセアニア選手権への派遣		Red	

【ワンデザインクラス計測】委員会　委員長【中村和俊】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e,h	委員会基本活動	・定例委員会の開催、および関係会議への出席、HP掲載内容の管理 ・クラス協会との業務委託契約の締結 ・日本セーリング連盟公式計測員規程 改定案の整備 ・委員会活動継続のための人材発掘と育成	・上記事業の推進を管理し推進するとともに、委員会全体の課題に対して取り組む	遅滞なく業務を実施する	通年	Green	遅滞なく業務を実施した 引き続き委員会メンバーの若返りが課題ではある。
g,i	規則管理	・計測に関連したWS文書を翻訳し、提供することにより計測員の資質向上を目指す。 ・競技者を中心としたクリニックを開催する。 ・ERS改訂版翻訳と修正、改定に伴う準備	・WSから発行される計測関連の情報を提供する。 ・改訂された規則の翻訳を行い、公式計測員の更新を推進する。	遅滞なく情報提供を行う	通年	Green	遅滞なく業務を実施した
g,l,m	公式計測員管理	・各クラス協会の新規クラス公式計測員の育成事業支援 ・公式計測員養成のための講習会用のテキストの見直しと作成 ・公式計測員の新規講習会を実施する ・組織加加盟団体において公式計測員の設置されていないクラスを支援する	・公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成する ・現公式計測員のERS改定に伴う更新を推進する。	複数クラスでの講習会の実施 原則として現公式計測員全員の更新	通年	Green	開催数は例年並み 今年度はすでに公式計測員である方が他のクラスの公式計測員取得をする方が増えた
g,i,m	IM及び候補者支援	・IM推薦、IM候補者への指導・支援 ・WSの情報を翻訳し提供する ・国際レベルの計測技術を維持する	・IMの養成と計測技術の向上を支援する	IM及び候補者の活動支援を行う	通年	Yellow	2024年のIMセミナー受験者のための再試験実施を計画したが実施できなかった。 2026年度に再試験の実施を計画している。
g,i	IHC管理	・セールメーカーでのIHCの運用を監査する ・セールメーカーの要請に基づくIHCステッカーの手配	・IHC制度の管理と運用を行う	WSの求める品質の維持の達成	通年	Green	2026年度からスナイプクラスもIHCを導入する。 今年度も3000枚の発注見込みではあるが、クラス増加で枚数増の可能性がある。 WSの監査も問題ない状況
g,l,p	国スポ等大型大会での計測支援	・国体等の大会装備検査の実施を主催団体と調整し実施の支援を行うとともに、計測員の派遣を行う。 ・アジア競技大会テストイベントでの大会装備検査の支援を行う	・国スポ等の大型大会における大会装備検査の精度を管理し公平公正な計測を行う	国スポ、ワンデザイン大会、アジア競技大会テストイベントでの大会装備検査の実施の支援	通年	Green	いずれの大会も計測通りの大会装備検査が実施された。

指導力向上委員会　委員長　坂口義家

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	①指導者講習会プログラム策定/改善	指導者のスキル向上、現場での実践率向上	受講者アンケート評価	-		
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	①-1.コーチ2専門科目講習会プログラム改定			6-12月	Green	海上講習の内容を一部更新し評価の向上が見られた
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	①-2.コーチ3専門科目講習会プログラム改定			4-6月	Yellow	前回プログラムに対して1-2. 2-1の活用度が低かった。
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	①-3.コーチ更新講習会プログラム改定			4-5月	Green	前年度講習に対して評価の向上が見られた
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	②指導者講習会の開催実施	資格保有指導者の維持/拡大	修了者人数& 次年度指導者資格保有数			
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	②-1.コーチ2専門科目講習会開催			大阪：10/25-2	Green	コーチ2前期は30名前期修了
					和歌山12/20-	Green	コーチ2前期は15名前期修了
					和歌山1/24-2	Green	コーチ2前期は15名前期修了予定
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	②-2.コーチ3専門科目講習会開催			6/27-29、8/2	Green	コーチ3は14名修了
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	②-3.コーチ更新講習会開催			2026/3/21-2	Yellow	更新講習への参加者は0名であった。
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	③-1.コーチ2/3共通科目講習会へのコーチデベロッパー派遣	コーチデベロッパーのスキル向上	派遣人数&派遣回数	10/24-26、9/26-28、11/15-16	Green	コーチ３共通科目講習会へ2名派遣できた。
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	④既存指導者資格保有者の維持	資格保有指導者の維持/拡大	当年度指導者資格保有数			
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	④-1.資格更新対象者への更新講習受講期限案内			3月/9月/11月	Yellow	5月に呼びかけを行い更新講習へ誘導したが、資格保有数減少
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	④-2.資格保有者リスト管理と会員管理システムへの反映	JSAF会員数の維持拡大	指導者資格保有者の 当年度会員数	4-3月	Green	更新受講期限案内をコーチからへ行ったが、管理システムへは未入力
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	④-3.資格保有者の会費支払依頼と登録確認			12月	Yellow	12月末対応(MySailing)
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	④-4.JOCコーチアカデミー受講者の募集と推薦連携			4-3月	Green	1名（飯塚）の支援を行なった。
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	⑤コーチング活動支援のための情報提供	ジュニアユース層のセーラー＆指導者 のスキル向上	掲載サイト参照数	-		
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	⑤-1.指導者向けコーチング教材の企画開発(初級レベル)			2-3月	Green	470級指導教材用動画を撮影した。
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業1:セーリング競技指導者育成	⑤-2.指導者向けコーチング教材の展開(初級レベル)			3月	Green	470級指導教材用動画をWebへ展開した。
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑥安全情報の管理	事故数の低減	掲載サイト参照数	-		
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑥-1.事故/ヒアリハット情報の収集と展開			4-3月	Green	収集と展開を都度行なった
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑥-2.レスキュー艇の操船ガイド等の開発(初級レベル)			4-3月	Green	初級レベル操船ガイドを作成した
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑥-3.安全講品情報の収集展開			4-3月	Green	収集と展開を都度行なった
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑥-4.練習時の危機管理チェックリスト展開と普及			4-3月	Green	収集と展開を都度行なった
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑦パッジテスト-事業の推進	資格保有数の拡大	報告による 検定実施数&受講者数	-		
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑦-1.パッジテスト実施状況管理			4-3月	Green	実施状況を把握した。762名登録
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑦-2.パッジテスト認定者管理			4-3月	Green	認定者を確認済みだが、会費支払は不明、管理システムへは未入力
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑦-3.パッジテスト検定者管理			4-6月	Green	検定者を把握したが、会費支払は不明
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業2: 普及と安全情報の管理	⑦-3.パッジテスト検定(改訂)			4-11月	Yellow	未実施
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業3: 普及と安全情報の管理		初心者指導方法(WSLTS3)展開 コーチポート操船安全情報展開	初心者指導方法(WSLTS3)動画 コーチポート操船動画	11/12	Green	ミズノ助成金を用いて教材作成した
Ⅰ-a,Ⅱ-f,h,i	事業3: 普及と安全情報の管理	⑧初心者指導方法(WSLTS)展開事業			-		
Ⅱ-f,h,i	事業4: 組織体制強化、および活性化支援	⑧JSAF内人材育成による活性化	委員会メンバー参画意欲向上	参画意欲評価	4-3月	Green	委員会メンバーそれぞれが各事業へ協力した
Ⅱ-f,h,i	事業4: 組織体制強化、および活性化支援	⑧-1.委員会内人材育成と活性化			5-6月	Green	委員会メンバーがJSLA講習へ参加した
Ⅱ-f,h,i	事業4: 組織体制強化、および活性化支援	⑧-2.国際人事交流アカデミーへの人材派遣			4-3月	Green	国スポ委などと協同した
Ⅲ-p,q,r	事業4: 組織体制強化、および活性化支援	⑧-3.委員会外への支援					

医療・科学委員会　委員長　原原　茂樹

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	医事委員会の維持・強化	医事委員会の開催(ハイブリッド開催)	委員会内 各部会の充実	専門部会数・各人数	2回/年	Green	目標は達成できている。引き続き組織体制を整備・維持・強化する。
h	JSPOスポーツドクター代表者会議	セーリング連盟代表スポーツドクターとして出席	JSPO加盟団体スポーツドクターと情報共有および連携におけるセーリングサポートの充実	各都道府県および中央競技団体より各代表参加 1名(総数 120名)	1回/年 以上	Green	目標は達成できている。引き続き組織体制を整備・維持・強化する。
i	公認医学・パラメディカル資格の推薦・取得の推進	公認スポーツドクター・公認スポーツデンティスト・公認スポーツファーマシー・公認スポーツ栄養士・公認アスレティックトレーナー養成講習会参講のJ-SPOへの推薦及び研修の手続き等推奨義務	委員の専門資格の取得	各資格推薦・取得人数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き継続体制を整備する。
j	競技会(国際大会・国内大会)における安全体制の確保	競技会(国際大会・国内大会)における安全体制の指導・助言・帯同	医事委員の派遣・Line 等による助言	派遣回数・助言数	通年	Green	目標は達成できている。引き続き情報共有を行う。
m	オリンピック強化選手の疾病・外傷等の対応	オリンピック強化委員会との連携	疾病・外傷 等の対策Line 等による助言を含む	相談件数	通年	Green	目標は達成できている。引き続き強化活動を展開する。
n	合宿・大会・HOPE事業のサポート	合宿・大会・HOPE事業における、医事、医学的支援	医事委員会の部会と連携し、丹洋に選手へ助言、支援などを行う	派遣回数・助言数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き強化活動を展開する。
q	女性アスリートのフェムケアと健康管理	競技団体(他の競技を含む)の有識者・オリンピアンを招待しての講演会の開催	女性セーラー の環境改善・女性セーリング関係者の普及改善	講演会数・各人数	1回/年 以上	Green	目標は達成できている。引き続き強化活動を展開する。

国民スポーツ大会委員会　委員長　藤川　寛明

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	国民スポーツ大会開催事業	○第79回国民スポーツ大会（滋賀県）への中央競技役員の派遣 ○第80回国民スポーツ大会リハーサル大会への中央競技役員の派遣 ○主催団体（大津市、むつ市）との施設整備、大会運営、式典等の調整・協議 ○参加艇、運営艇の安全対策の推進 ○一般の認知・関心の向上に向けた「見える国スポ・見せる国スポ」推進のためのレース中継等イベント事業の推進 ○開催地での セーリングスポーツの普及推進 ○国スポ参加資格の審査 ○総合成績の算出 ○日本スポーツ協会（JSPO）との連絡・調整	○円滑な国スポ運営への開催地支援 ○一般市民等への認知度の向上 ○開催地におけるセーリング競技の普及	○第79回国スポ（滋賀県大津市） 参加艇数　330艇 参加選手、監督数　550人 中央競技役員派遣　30人 ○第80回国スポリハーサル大会（青森県むつ市） 中央競技役員　25名	2025年9月～ 2026年10月	Green	○第79回国民スポーツ大会（滋賀県大津市） ・参加艇数　328艇 ・参加選手・監督数　547人 ・中央競技役員派遣　30人 ○滋賀国スポにおいて、全選手・監督の国スポ参加資格の審査を行った。 ○滋賀国スポにおいて、総合成績の算出を行った。 ○第80回国民スポーツ大会リハーサル大会（青森県むつ市） ・中央競技役員派遣　25人 ○国スポを開催する実行委員会（大津市、むつ市）との施設整備、大会運営、式典等の調整・協議を行った。 ○滋賀国スポ及び青森国スポリハ大会において、一般の認知・関心の向上に向けた「見える国スポ・見せる国スポ」推進のためのレース中継等イベント事業の推進した。 ○国民スポーツ大会における暑熱対策（案）を策定した。 ○年間を通して日本スポーツ協会（JSPO）との連絡・調整を行った。
e	国民スポーツ大会開催準備支援事業	○円滑な大会運営のため協議及びJSAF関係委員会との調整目的とした国スポ委員会開催 ○開催予定地の実行委員会・セーリング連盟及びJSAF関係委員会による準備状況の確認等を目的とした国スポ研修会の開催 ○開催地実行委員会及びセーリング連盟との調整・協議・指導 ○国スポ開催予定地の中央競技団体正規視察及び指導・助言 ○開催予定地の国スポ開催準備への支援	○円滑な国スポ開催のための準備に関する開催地実行委員会・セーリング連盟の支援 ○国スポ開催基準に沿った開催地の選定 ○国スポ運営方針に沿った大会品質の確保	○国スポ委員会開催2回（6月、1月） ○国スポ研修会1回（1月） ○中央競技団体正規視察1回（時期未定） 国スポ開催地（大津市）の現地視察	2025年4月～ 2026年3月	Green	○国スポ委員会を2回（第1回6月15日、第2回1月25日）夢の島マリーナ会議室において開催した。 ○国スポ開催予定自治体及び県連を対象に国スポ研修会を開催した。（1月25日） 奈良国スポの中央競技団体正規視察は、奈良県の都合により翌年度に延期される見込みである。 国スポ開催地（大津市）の現地視察及び協議を実施した。 ○国スポ開催予定実行委員会と随時協議・調整を行った。 ○JSPOにおいて、国スポのあり方の検討が進められており、セーリング競技においても簡素化等の検討を進める必要がある。
e	国民スポーツ大会開催関連事業	国民スポーツ大会において、観客にわかりやすく見せるためのセールに貼付する県名・県番号の販売斡旋	・「見える国スポ」、「見せる国スポ」の推進	○県名シール販売　120枚 ○県番号シール販売　120枚	2025年 7月～9月	Green	○県名シール販売　124枚 ○県番号シール販売　117枚 ○シール原価が高騰しており、値上げが必要な状況となっている。

オリンピック強化委員会　委員長　宮本　貴文

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
①より強く（Enhance）	強化対象選手(NT-S/NT-A/NT選手)の海外大会派遣	海外主要大会(Princess Sofia杯、種目別世界選手権、種目別欧州選手権他)への派遣とオリ強コーチ・スタッフによるサポートの実施	LA2028大会での連続メダル獲得(470クラス)、1種目以上の入賞	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	期初のなるべく早いタイミングでNT/Next-NT選手に総枠での強化予算提示を実施し、各チームは年間計画を作成してそれぞれ遠征・合宿等を行った。チーム事情により470継続チームの認定大会出場は叶わなかったが、2026年度に向けては視界良好。2025年度中にNTがS子ム誕生し、うちTチームはHOPE選手となったことも明るいニュースである。
	強化対象選手(NT-S/NT-A/NT選手)に対する強化合宿・サポートの実施	NT-S/NT-A/NT各チームが抱える調整課題にフォーカスしたチーム特化型の強化合宿、各種サポートを実施		各大会の成績、合宿レポート	随時	Green	NT-A入りの最右翼であった470の継続チームが強化選手認定大会に出場できず、本格的な活動は実施せず。ただし、来年に向けて視界良好であるため、LA2028PTの本格的な発動に向けて人選りを含めて新規に準備を進める。 また、NTについては総枠での予算提示を行い、3月末まで認定継続とすることで、各チームの状況に応じた強化計画を策定・実施することができた。
	LA2028大会に向けた「LA2028メダル獲得PT」の設置、現地情報入手	LA2028大会の準備組織として「LA2028メダル獲得PT」を立ち上げ。現地の視察や現地有識者との協議を通じて、各種準備を開始する		各種レポート等	随時	Green	7月にLA現地の視察を実施。現地コットクラブ等とのコネクションを構築でき、現地状況についても情報を仕入れることができた。次年度以降の計画に活かして行く。
②よりひろく（Expand）	HOPE育成プログラムの実施とアップデート	HOPE選手を対象とした、セーリングスキル及び人間力の向上を目的としたHOPE育成プログラムを実施(詳細別紙ご参照)	次世代有力選手の継続的な輩出。LA2028/Brisben2032を見据え継続的な選手強	各大会の成績、合宿レポート	1週間～10日/月	Green	当初の計画通り、滑り無くHOPE育成プログラムの力リキュラムを実施した。2026年1月には第0期生として6名の新規生を迎え入れ、また、特に栄養面での人員増強を行い、フィジカルと共に栄養面でも個別の指導が可能な環境を構築できた。
	強化対象選手(HOPE選手)の海外大会派遣	HOPE選手の海外主要大会(Princess Sofia杯、Sailing Youth World/Jr. World等)への派遣		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	予定通り大会派遣を実施・HOPE第一期生の2チームがNT.Next-NTに認定されるなど、結果が出始めている。 また、HOPEユース選手の最大のターゲットであるSailing Youth Worldsについても420女子の4位、iQFOiL6位に入るなど、成績が向上しており、今後も有効なアプローチを行い、複数種目での入賞・メダル獲得を目指していく。
	強化対象選手(HOPE選手)の個別合宿・大会での指導等実施	選手別の強化計画の策定と進捗状況の確認を都度実施し、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での個別指導を実施		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	HOPE選手については年間計画書の作成・提出を義務づけ、3ヵ月に一度のコーチ評価を通して都度計画のアップデート・進捗が確認できる仕組みを構築済み。計画に基づいてHOPE選手についてはニーズに応じた国内・海外合宿を実施し、節目となる大会の帯同も実施した。HOPEユース選手については月次のHOPE合宿と個別合宿を中心として強化を行いつつ、全日本選手権や水域別選手権といった各大会にも帯同を行った。
	強化対象選手(Next-NT/海外派遣選手)の海外大会派遣	Next-NT/海外派遣選手の海外主要大会(Princess Sofia杯、種目別世界選手権他)への派遣	NT選手層の拡大、各艇種の国内競争力の強化	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	Next-NT選手に対してもNT選手に次ぐ総枠予算を期初段階で割振り、強化活動を行いやすい環境を整え、競争的な国内合宿・海外大会遠征の実施を促した。また、海外派遣選手については2倍に枠を拡げ、2026年PS杯においては若手5名を含む14名が出場予定となっている。
	強化対象選手(Next-NT/海外派遣選手)の個別合宿の実施	Next-NT/海外派遣選手とHOPE選手をタイアップした国内種目別合宿の実施		合宿レポート等	随時	Green	NT/Next-NT選手が存在するILCA、iQFOiL、FXについてもチームの予定を調整しながら合同合宿等を実施した。特にFXについてはHOPE選手の成長もあって競争力を上げる取組が可能となっている。
	2026アジア大会対応	アジア大会種目の代表選考方法の決定と各艇種強化策の策定・実行	アジア大会でのメダル獲得 【目標値】金メダル5、その他メダル5 オリンピック種目：金メダル2、その他メダル3 ユース種目：金メダル3、その他メダル2	代表選考・強化施策に関わる各種資料	随時(速やか)	Green	代表選考方法については、11月29日に正式版を公示済。年度始めより各クラス協会や選手・コーチ等関係者と複数回の説明会を実施し、コンセプトについて説明を実施すると共に、要望の聞き取りについても実施の上で内容を決定した。各艇種の強化策については オリンピック種目については強化選手、ユース種目についてはHOPEユース選手の強化を軸に、各クラス協会等の協力も得ながら策定、実施中。3月22日現在、ILCAやクラスについては代表・補欠選手が決定。4月以降に順次選考レースが実施される見通し。
③未来へ繋げる（Lead to the Future）	NTC・各強化拠点との連携強化	HOPE育成プログラムを始め、HOPE選手を対象とした各種強化合宿の実施を通して、NTC及び各強化拠点との連携を深める	各自治体の補助金等を活用した各拠点の機材等の充実 各地域における競技普及・認知度向上への貢献、及び各地域の人材活用	合宿レポート、各種報道等	随時	Green	境港、座間味、江の島の3強化拠点についてはHOPE合宿および個別合宿の拠点として引き続き活用を行うと共に、機材の充実、利用時の便宜等について順次対応を頂いている状況。引き続き活用を促進し、更なる協力関係の構築を進めたい。和歌山NTCについてはまにげんき開発研究所とタイアップした体力測定の実施拠点として再定義をし、活用している。地元人材の活用・競技普及・認知度向上については今後の課題。
	練習用(HOPE育成プログラム用)機材の充実	各強化拠点自治体等と密接に連携し、競技艇・コーチボートその他の海上練習機材の充実を図る	持続的かつ発展的な次世代育成・強化プログラムの遂行	使用(借用を含む)可能な競技艇・コーチボート艇数	随時	Green	座間味においても艇のILCAを購入頂き、活用中。境港についても順次利用可能な競技艇やコーチボートの充実を行って頂いている。
	強化スタッフの充実	HOPE育成プログラムを通して外部コーチ、トレーナー、栄養、メンタル、ルール、修理等の各分野のスタッフについて、更なる拡充を行う		強化スタッフ(外部コーチ/トレーナー/管理栄養士/調理師/メンタルトレーナー/ルールスタッフ/修理スタッフ他)の期末(実働)人数	随時	Green	組織図を策定し、スタッフそれぞれの立ち位置と業務内容を明確化することで、既存のスタッフの定着化を達成できていることが大きい。新規スタッフについては外部コーチ1名、トレーナー2名を登用しており、来季も継続的に協力スタッフの拡大に努めて行きたい。
	海上・陸上における艇種別での各種数値の計測・データアーカイブ化	競技/種目特性に着目した各種海上練習・フィジカルメニューの開発・設定とデータの積み上げ	科学的知見の積み上げ・分析による合理的な強化施策の実行	One TAP SPORTsへの登録データ内容 海上練習にフォーカスした各種トレーニングデバイス	随時	Green	種目特化型のメニューについては一旦開発が一段落し、順次進捗を追いかけるフェーズとなっている。ONE TAP SPORTSについては一旦取りやめ、代替としてエクセルスプレッドシートによるフィジカル・トレーニングデータの蓄積を行っている。HOPE合宿外においてもLINEを活用した日々のトレーニング指導・管理が定着化し、順調に推移をしている。
	事務局機能の強化	事務局業務内容の再整理を実施、手薄な業務分野についての体制の再構築を行うとともに、属人化している業務の棚卸しマニュアル化を推進(詳細別紙ご参照)	持続可能なバックオフィス体制の構築	新規人材数、事務局業務に関する組織図・ジョブディスクリプション、業務マニュアル	随時	Green	2025年度は事務局人材の入れ替えが発生したが、新担当者でのOJT期間を設けて滑り無く引き継ぎを実施することができた。とくに動成金関連の業務マニュアル策定が必須と感じており、2026年度の課題として取組みたい。
	オリンピック強化コンテンツを活用したマネタイズ施策の立案・実行	JSAF強化スポンサーの獲得、既存スポンサーとのアクティベーション活動の実施、有望選手とスポンサー候補者とのマッチング機会の創出等	動成金や選手自前の活動資金のみに頼らない、資金的に多様性を持った強靭な強化体制の構築	スポンサー数、スポンサード内容、選手マッチング数、アクティベーションの活動報告他	随時	Yellow	既存スポンサーとの関係性構築・発展については相応の取組むことができたが、新規スポンサーの獲得、選手とのマッチングについてはマンパワーの不足により充分に取り組めていない。2025年度の新規スポンサーはDOME Medical の1社(W)。2026年度の継続課題としたい。
	強化教材の共有、HOPE育成プログラムへの外部指導者受け入れ等による強化メソッドの外部還元	HOPE育成プログラムで実施する各種講習資料のウェブサイトでの公開や合宿への外部指導者の受入れを実施し、強化メソッドの積展開を図る	セーリング界全体、特に指導者層におけるレベルアップ・持続的発展への貢献	ウェブサイトにアップされる教材数、HOPE育成プログラムに参加した外部指導者数	随時	Yellow	教材については適宜アップデートを実施し、プログラム内で活用できたが、著作権等の関係でウェブサイトに掲示できる迄で至っていない。2026年度に実施予定。指導者については適宜選手を引退したコーチ2名を受入れ実施。海外遠征等についても若手コーチをアサインして帯同を頂いた。

ジュニアユースアカデミー委員会　委員長　中村　公俊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
a.b.f	ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデ	テキストの発行及び配布	海やセーリングへの興味関心の拡大	予算確保できず未実施		Red	育成委員会に役割を移行
d.f	ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデ	アカデミーコーチンバンクの構築	人材の育成及び活用	同上		Red	同上
a.b.f.j	ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデ	アカデミーコーチの派遣	シーマンシップの啓発及び経験の共有	同上		Red	同上
j	ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデ	コーチングセミナーの開催	シーマンシップやコーチングノウハウの流布	同上		Red	同上

キールボート強化委員会　委員長　久保田　恒

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
f	大学対抗&U25ヨットマッチレース開催支援	大学対抗&U25ヨットマッチレース2026の開催に向けて支援協力活動をおこなう	ユース世代のキールボート競技者の維持拡大	参加選手60名、参加ボランティアスタッフ15名	2026年3月	Green	12チームが出場し、大会が滞りなく開催された。開催支援を継続する。
q	NYYCインビテーショナルカップへのJSAF代表チーム派遣	2025年NYYCインビテーショナルカップにJSAF代表チームを派遣する	キールボート競技力の強化	3位入賞	2025年9月	Green	JSAF代表チームを当該大会に派遣し、20チーム中13位の成績であった。
q	NYYC国際女子選手権へのJSAF代表チーム派遣	2026年NYYC国際女子選手権に派遣予定のJSAF代表チームを選考する	女子やユース世代のキールボート競技力の強化	JSAF代表チームの大会エントリー	2025年	Yellow	JSAF代表チームを公募したが、期日までに応募がなかった。
q	グローバルチームレースレガッタへのJSAF代表チーム派遣	2025年グローバルチームレースレガッタ(米国Newport Harbor YC主催)にJSAF代表チームを派遣する	チームレースの選手強化	3位入賞	2025年10月	Green	JSAF代表チームを当該大会に派遣し、12チーム中12位の成績であった。

国際大会等早期委員会　委員長　中村　脇夫

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

外洋常任委員会　委員長　鈴邦　伸雄

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	セールナンバー普及拡大事業						
		外洋艇のセールナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する	セールナンバー取得艇数	通年	Green	・艇登録総数　771艇（△１５） うち非会員艇数　41艇（△２）
		セールナンバー普及拡大に合わせ、各地のヨットクラブや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する	全国各地でのセーリングの安全、ルール順守の強化をはかる	開催実績	通年	Green	海鳴ヨットクラブで試行。これ以降につなげる基盤が出来た・
	オフショアレース支援と世界選手権派遣事業						
		2032プリスベン五輪を目指し世界選手権に選手を派遣する。(国内選考レース開催を含む)	2032五輪を狙える選手の育成強化	派遣実績	通年	Green	5月に外洋ダブルス日本選手権開催。日本代表をワールドに派遣。
		JSAF共同主催の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	2032五輪や世界選手権、世界レベルの外洋レースで活躍できる選手を育成していく	開催実績、	5月	Green	外洋ダブルス日本選手権、沖縄東海レース等
		2032プリスベン五輪での外洋レース復活に向けて、World Sailingの外洋アドバイザリーボードとの連絡強化を図る	World Sailingの2032プリスベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略づくりへの参加を図る	連絡調整状況	通年	Red	何回もWarld Sailing関係者に連絡したが、反応が来なかった。
		2032プリスベン五輪での外洋レース復活に向けて多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。	World Sailingの2032プリスベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と共同歩調をとる	全日本からクラブレースレベルまでのダブルハンドレース開催数	通年	Green	沖縄東海レースはじめ、多数のレースにダブルハンド、ショートハンド・デビジョン
		オフショアレースのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、促進、実施を進める。	世界レベルの選手育成のためのスキル向上		通年	Green	サバイバルトレーニング 4回開催　計41名受講
	加盟団体・特別加盟団体等との関係強化事業						
		外洋加盟団体長会議を年2回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	9月、1月	Green	2回実施、実会場とWEB併用で参加者増
		外洋常任委員会を開催する。(年7回程度)	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	通年	Green	６回実施、実会場とWEB併用で参加者増
		外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。	レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績	2月	Green	支援した
		ヨットクラブ、泊地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連絡・連携の強化を図る	連絡実績	通年	Green	
	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進						
		外洋艇の安全確保、安全情報の交換、救助関係組織との連携強化	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく				
		ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する	船舶検査、免許制度、通信等をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	通年	Green	国土交通省、海上保安庁と随時連携。小型船舶検査機構評議員等に派遣
		レースでの安全確保の指導					
		サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績、		Green	4回開催　41名受講
		万が一のための主催者保険加入	レース主催の安全確保		通年	Green	主催者保険を通年実施
	海洋環境保全普及事業						
		海その愛基金事業とコラボしての海洋環境保全、普及啓発を進める	海洋環境の状況を調べその保全、状況を子供達や市民に啓発していく	活動実績	通年	Red	今年は海その愛基金とのコラボは無かった。海その愛基金委員会自体が休眠状態。

外洋計測委員会　委員長：川合 紀行

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h,q	レーティング証書発行	・IRC/ORCの計測の実施 ・提出された計測データの確認、必要に応じて問い合わせ・修正 ・IRCデータのRORCへの送付、証書データの受取・内容確認 ・ORC証書の作成・内容確認 ・証書の発送	レーティング証書の適正化	証書発行枚数IRC340枚、ORC65枚	通年	Yellow	IRC275枚（2025年間）、予想達成率81% ORC47枚（2025年度）、予想達成率72% 証書取得船を増大につながる普及策が課題
h	証書発行データ管理	・証書データの整理、データ・ストレージの管理 ・証書受付、管理表作成、請求書発行、再請求発行	データ資産の保全と利活用性の向上	再請求チェック3回/年	通年	Green	約3か月毎に再請求 定期的な未収対策、期日内の入金の啓発。
f,g	レーティングシステム普及	・レーティングの適正な運用のため、IRC/ORCのセミナーの実施 ・合同委員会会議を共同開催し、最新情報の周知を行う ・各レースのテクニカルコミッティへの協力策の支援	公式レーティングのレースの普及と質の向上	合同委員会での周知、TC派遣	通年	Green	ミニトンタ全日本へのスタッフ派遣の実施 2026年2月合同委員会実施（ルール改正、解釈のポイントを周知）
h	規則等の管理・運用	・HPの管理、適時更新 ・規則やマニュアル類各種資料の翻訳・作成	会員の最新情報へのアクセス向上	日本語版規則、2026年料金表、HP更新	通年	Green	HPに掲載済
h	計測機器の管理	・重量計等の委員会所有の計測機器使用の受付管理、配送 ・定期的なキャリブレーションの実施	機器の精度維持	キャリブレーション1回/年	通年	Green	機器発送済、キャリブレーション待ち
g,h	計測技術の継承	・計測実技のレベルの維持・向上ための講習会の開催 ・計測実技のノウハウの資料化（画像や文書）	計測精度の向上	計測実技講習会の実施	次回は2027年2～3	Green	2年毎に実施のため、次年度に実施。 今後は、更新講習と新規取得者の講習は切り分けていく。
h,i	国際会議への派遣	・ORCコングレスへの委員の派遣 ・IRCコングレスへの委員の派遣	国際標準への適応	会議報告書	2025年10月	Green	IRCコングレス（2025/10 イギリス） ORCコングレス（2025/11 アイルランド） ※初めてオンラインによる参加
e,g	外洋計測委員会会議	・外洋計測委員会会議の開催 ・レーティングに関する解釈・解説の通知文等の作成	国内での運用上の課題の解決	会議録、各通知文	通年	Green	月例会議オンライン開催 会議録、通知文の公開 委員の世代交代が今後の課題。

外洋安全委員会　委員長　宮川　昌久

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	事業1）委員会基本活動						
h	委員会会議	委員会運営および以下事業の実施に関わる議論と方針・行動の策定を行う	OSRへの理解、安全規則の普及促進 事故防止、安全航行に対する意識の向上	議事録	通年	Green	
h	ホームページの維持・管理	ホームページにOSR改訂や安全週間およびその他の諸連絡事項を掲載し、維持・管理する	OSRへの理解、安全規則の普及促進 事故防止、安全航行に対する意識の向上	ホームページ	通年	Green	HP、SNSの定期的な更新を実施
	事業2）外洋特別規定（Offshore Special Regulations: OSR）普及						
h	1. OSR日本語翻訳版の発行と国内規定制定	・日本語翻訳版の発行 ・国内規定策定	OSRへの理解、安全規則の普及促進	OSR日本語翻訳版	1月・2月	Green	26年の改訂に伴い、翻訳・製本データ作成の外部委託が必要となり、予算案に反映を検
i	2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施及び講師派遣	OSRへの理解、安全規則の普及促進	受講者数		Red	実施に伴う原資不足の為開催なし、収入源の確保が課題
i	3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説	OSRへの理解、安全規則の普及促進	SNSフォロワー数	通年	Green	HP、SNSの定期的な更新を実施
g	4.OSRのアプリ化検討	OSR販売のアプリ化を検討、アンケート等で利用者ニーズの把握を図る	DX、OSRアクセス簡易化、利用者費用負担減	OSRアプリ購入希望者数	～9月	Yellow	アプリ作成は費用対効果検討し見送りを決定
	事業3）安全航行啓蒙						
i	1.安全週間	安全週間を春と秋の2回/年設け、忘れがちな点検整備や乗員の訓練等の実施を呼びかける	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	4月、10月	Green	3月と9月に実施
i	2.安全講習会への講師派遣	加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師を派遣	事故防止、安全航行に対する意識の向上	受講者数	要請に応じて	Red	実施に伴う原資不足の為開催なし、収入源の確保が課題
i	3.関係する諸法令の改正のための関係官庁に対する	国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかける	セーラーの安全性の向上や活動費用の低減	―	通年	Green	実施なし
i	4.「日本海難防止強調運動」への実行委員	日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員を務める	船舶安全航行に関する情報収集および発信	―	通年	Green	会議に出席して対応
i	5.事故報告書	外洋艇関係の事故数や事故の内容を集計・分析、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめ、ま	船舶安全航行に関する情報収集および発信	―	通年	Green	
	事業4）外洋合同委員会会議						
h	外洋合同委員会会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる規則のポイントや改定箇所の解説・共有・議論を合同会議	外洋レースの全国均一化とレース主催者（加盟団体）のスキル向上	参加者数	2月	Green	26年2月に沖縄にて実施、参加
h	外洋団体長会議				9月	Green	会議に出席して対応

通信委員会　委員長　坂口 誠治

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h, i, j	海岸局維持事業	既存のJSAF海岸局の今後の海岸局のあり方の提言を策定	海岸局の今後数年間の運営方針を策定	運営方針計画	通年	Green	外洋艇の登録数が減少するなかで海岸局を維持する、運営方針の策定を進める。次年度は九州ヨット局の免許更新および総合がある中、運用する三浦半島セーリングクラブと
h, i, j	海岸局維持事業	VHF無線局免許状更新時の海岸局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手順を改善	無線局免許更新時の海岸局加入証更新の促進	海岸局加入証更新実績の比率向上	通年	Green	免許更新時の手順の要望をお伝えし対応いただく予定。次年度に再確認予定。
h, i, j	オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースの通信環境およびレーストラッキング環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを運用する通信環境の知見の獲得	開催実績	通年	Green	引き続き外洋レースに向けて関連する最新の情報を収集、シドニーホバートヨットレースなどの海外レースで使用された機材、運用方法の調査を行った。また、OSRの改定に伴う調査を行った。
i	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	外洋艇の安全確保、ブレジャーポート系の無線局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の啓蒙	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	開催実績	通年	Green	日本マリン無線協会が展開する広域連携ネットワーク海岸局との連携が可能か、引き続き討議中。
i	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望	通信環境をヨットに合うよう改善するための活動	開催実績	通年	Green	関東総合通信局と現状を確認、要望を行った。
i	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	海上通信環境の最新情報の取得	メーカーや無線関係団体との関係を構築し、無線環境の進化に対応する準備を行う	開催実績	通年	Green	国内メーカー2社、海外代理店2社からの情報提供および機材の貸し出しなどを受け、関係構築を行った。

パラセーリング委員会　委員長　佐藤　公俊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
o	全日本大会	インクルーシブセーリング（における国内のランキング対応大会、次年度のパラセーリング強化選手の選考レースを兼ねる(JSOC亡助成)	国内普及および次年度強化選手選考レースの位置づけ	高松で開催・参加者30人	10/11,12,13	Green	参加選手は32名（パラセーラー12名）
o	東日本大会	インクルーシブによる東日本地域での大会(JSOC亡助成)	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	東京で開催・参加者25人	6/7,8	Yellow	参加選手は17名（パラセーラー9名）
o	西日本大会	インクルーシブによる西日本地域での大会(JSOC亡助成)	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	広島で開催・参加者50人	9/20,21	Green	参加選手は84名（パラセーラー13名）
g	指導者育成講習会	パラセーリングの取り組み、インクルーシブの理念、国際大会の心構え、技術、ルール等を網羅したセミナーを各分野のトップコーチを迎えて学ぶ(JSOC亡助成)	全国各地域でインクルーシブ理念を理解し、安全性や技術を持った指導者を育成して普及につなげる	江の島と若洲で開催・参加者40人	11/24・12/6	Yellow	参加者 江の島：23名・若洲：6名
o	国際大会派遣	WSの主催する国際大会（世界選手権）へのチーム派遣	国外での日本チームの認知度向上(JPC助成)	派遣人数・レース成績	11/30～12/10	Green	派遣選手4名、ハンガ303で月羽選手が銅メダル獲得
o	国内強化合宿	強化選手の競技力向上を目的とした合宿の開催	強化選手の競技力向上（JPC助成）	参加人数・参加者満足度による評価	7/12,13	Green	参加選手は7名。JPC助成金により海外コーチを招聘、技術向上に役立った合宿となった
g	ルール等各種講習会	強化選手に向けたオンラインでの各種講習会、勉強会の実施	強化選手の競技力向上（JPC助成）	参加人数強化選手9名	通年	Green	9/10にアンナ・ドービング講習会を実施。参加選手は12名
g	メディカルチェック	強化選手へのメディカルチェック	強化選手の健康状態の把握(JPC助成)	参加人数強化選手4名	未定	Red	実施せず
o	ブラインド世界選手権出場	キールボートのブラインド世界選手権へ出場する	出場メンバーの技術向上	派遣人数・レース成績	9/1	Red	参加せず
o	ブラインドセーリング強化合宿	新入会員が増えているので、レース形式で技術向上を図る	参加メンバーの技術向上	参加者ブラインド3人・サイテッド10人	10/1	Red	実施せず
g	ブラインドセーリング普及活動	各支部でブラインドセーリング体験会を実施し、普及活動を行う	会員増加	ブラインドセーラー参加者10人	7月～10月	Red	インクルーシブセーリング体験会で実施
c	SNSを通じた広報推進	Facebook・Instagramのブラッシュアップ	パラ・インクルーシブセーラー増加	フォロワー数500人増	随時	Green	フォロワー数は約600人増
c	広報宣伝用資料作成	チラシ、ポスター作製・配布		配布先20か所	随時	Green	配布先25か所
c	広報素材作成	パラ・インクルーシブセーリングの写真・動画作成	写真・動画	計2回	随時	Green	全日本・西日本・東日本・指導者養成講習会・全国で開催された体験試乗会で写真・動画
c	ショート動画アカウント管理委託	TikTok・YouTubeShortのアカウントを作成し、全国各地での活動をショート動画として編集、投稿する事業を年間で委託する	◆若年への情報リーチが課題となる中、10-30代のユーザーが多く、固定フォロワーが少なくても広範囲での閲覧が可能なTikTokを利用して認知度向上を図る。 ◆アカウント管理を委託することでボランティア委員の負担軽減を図る ◆委託先は精神障害者の就労支援NPOで、丁寧な作業とクオリティ維持が見込め、社会的な意義も高い	単独動画へのリーチ数1000、エンゲージメン	2025年2月 ～ 2026年3月	Red	実施せず
g	海と日本プロジェクト（キャラバンS事業）	障がい者セーリング体験会を5か所で開催	会員増加	障がい者セーラー参加者40人	4月～11月	Green	
g	全日本大会に紐づく国内クラス分け	専門医師による障がい者セーラーの国内クラス分け実施	日本国内でのクラス分けの機会を増やし、選手強化に向けた戦略的パスウェイの構想を具現す	―	10/11,12	Yellow	障がい者セーラー1名の国内クラス分けとなった
g	パラセーリング体験会	障がい者セーリング体験会を3か所で開催	会員増加	参加人数・参加者満足度による評価	8/2・8/10 8/30・8/31	Green	参加選手は119名（パラセーラー30名）。高松・若洲・徳良胡・函館で開催
g	インクルーシブセーリング体験会	視覚障害者とのセーリング体験会を2か所で開催	会員増加	参加人数・参加者満足度による評価	6/1・11/24	Green	参加ブラインド選手は7名。葵の島マリーナ・シーボニアマリーナで開催

eSailing委員会　委員長　馬形　依子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
acf	Steering the Course（PR・普及事業）	Steering the Course期間にVRI紹介と体験会（レデース委員会と連携）	繋がり続けられる環境の紹介	参加者50名	2025年5月	Yellow	レディース委員会と連携してのイベントは未実施。 Steering the Course期間にVRIでの公式イベント為り、次年度既に開催されたSteering the Course日本の女性選手の参加資格者のエントリー拡大に向け連絡を実施。世界選手権ファイナル枠を目指し引き続き連携を行う
acf	eSailing練習会・体験会（PR・普及事業）	オープンエントリー練習会	体験、練習機会の提供、ツールとしての紹介	参加者：1回最大19名x3レース	通年	Green	日曜20:00からの「オープンエントリー練習会」を①20:00②20:15③20:30の3レース開催。 eSailingレガッタの合間に、息抜き、予習、復習、ウォーミングアップ、クールだウイン、コミュニケーションツールとして活用できるようにPRし、ナショナルチームの選手も参加してくれスキルアップの機会となった。学生がJVRIのコミュニーに加入し、積極的にオンライン交流が実施され、eSailing委員会とも連携できた。日本プレイヤーだけでなく、海外からも参加可能のオープンな練習会として開催したところ、各回への参加が増えた。レベルが高い練習会になっているころから、体験会要素の機会を繰り交ぜながら実施していく。
q	全日本（Japan cap）開催・運営（普及・強化事業）	全日本（Japan cap）　開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2025年8月	Green	世界選手権（eswc）予選シリーズにし、日本ランキング上位20名による決勝に方式を変え実施。 特別協賛のロート製薬様のオフィス会議室を無償提供いただきリアルとオンラインハイブリッド形式で実施。入退出の規制があったことから、観客は関係者のみで実施した。 ・11月全日本eSailingインカレ開催に向けて公認申請へのアドバイスやアリーナ機能でのレース開催など協力支援多案施。
q	ネーションズカップ支援（普及・強化事業）	ネーションズカップ支援・選手の活躍配信、 紹介によるPRとネーションズカップにNIJとしての手続	世界大会での活躍紹介と活動支援	ベスト8以上を目指す	########	Green	ネーションズカップの予選グループリーグ1位で通過。決勝リーグ（トーナメン戦）が2026年1月・2月に開催されている昨年の3位以上を目指してている日本チームの支援を継続実施。 ネーションズカップ国別対抗戦規様、次年度参加利無料やアプリ上日本高面の作成などと特典を獲得できた。 eSailing World Championship 2025グランドファイナルに3名選出、2位入賞。パルクヘッドマガジンさんの協力もあり、その他SNSでの情報発信を行ったが、結果の発信比重が大きい。開催時期変更や対戦国との調整で事前の紹介やPRが難しいが、広報委員会と連携し次年度は事前の発信を工夫していく。
acf	ボートショー	ボートショー体験会実施	新たなセーリングファン層の拡大	1回10名程度の入れ替え制	2026年3月	Green	3/20～3/22でe-Sailing委員会から延べ3名派遣し体験会、紹介を実施予定。実行委員会よりパネル、メインステージでの1コマ対応要請あり。当日はナショナルチームと学生に登壇いただき、e-Sailingの紹介、デモンストレーションレース、対談を実施。開連以外の一般の方が多数観客席で観戦し、体験可能のデモンストレーションレースも開催したが、アカウント作成完了していなと参加ができないことから、次年度同様の機会の際は工夫を行う必要がある。